

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i 大学と企業による共同研究等を通じた連携の促進及び産業の振興</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 県内産業の振興に寄与するため、情報セキュリティ学科の入学定員を令和3年度に増員し、情報セキュリティ分野における企業との共同研究の拠点となるセンターの整備を進め、令和5年度供用開始となった。整備効果が高いものとなるよう、関係機関とも連携しながら活用を図っていく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 情報セキュリティ産学共同研究センターについては、令和5年度から産学連携推進マネージャーを配置し、学生・教員・企業間の接点の創出や研究支援の役割を担うことで、共同研究の促進、人材の育成、地元企業との連携等による地域産業の活性化につながる取組を行い、センターの活性化を図っていく。</p>
<p>ii 情報セキュリティ高度専門人材の育成(社会人を含む)</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 全国的に情報セキュリティ人材が不足する中、情報セキュリティ学科では、令和3年度から入学定員を40名から80名に増員し、さらなる人材の育成に取り組むこととしている。今後、整備中の情報セキュリティ産学共同研究センター(仮称)を活用した学生と企業との交流や実践的教育の充実を図っていく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 整備した情報セキュリティ産学共同研究センターを活用し、企業との共同研究や実践的な教育など教育内容の充実を図り、即戦力となる高度人材の育成を行っていく。</p>

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点